写真左はふわふわラベンダーボール。

滝沢佳子さんは結婚を機に飯山市に移住し、現在は、市役所などでの相談員、カウンセラーとして勤めていた時の経験を活かして高橋まゆみ人形館に勤めながら、ふわふわラベンダーボールの製作、IIYAMA にっこりマルシェの主催などに取り組んでいる。

ふわふわラベンダーボールは、地元の綿とラベンダー、そしてカラフルな羊毛を使ったマスコットである。8 年前、初めてラベンダーボール製作のワークショップに参加し、心から癒されたと語る。そしてこの癒しを多くの人たちにも体感してほしいと考え、現在まで活動を続けてきた。滝沢さんには今も記憶に残る大切なエピソードがある。目の不自由な人たちとワークショップを行うことになったが、施設からは針を使わないでほしいと言われる。しかし、参加者から是非針を使いたいとの申し出があった。手に手を添えて作り方を指示し、一緒に手を動かすという、この時の経験から、簡単に「できない」と可能性を否定するのではなく、可能性を拓くことの大切さを学んだという。

「飯山市を元気に、自分自身を元気に、地域を元気に」という理念で始めた IIYAMA にっこりマルシェは、みんなで楽しみ、安心し、居場所になるような時間を作ることが目的であり、滝沢さんは女性の活躍の場を提供しながら、主宰者として活動している。

滝沢さんは SGDs の「誰 1 人取り残さない」という概念に共感している。ただし、まず自分自身を取り残さないことが大切であるという。何かをする時に、自分自身が本当にやりたいこと、やりたくないこと、そのどちらも考えながら、分からない時は身体感覚として体は動くか、それとも重たいのか、やろうとしていることで未来をどのように変えることができるのか、どのような色に変わるのかなどを考えながら、自分自身を取り残さず歩むことが大切であるという。

「自分を大切にできる人は誰かを大切にすることができる」、それが滝沢さんにとっての SDGs の理念といえるだろう。